

埼玉県人会母権と交流に力注ぐ 動き出した飯島秀昭会長 サンパウロ新聞



「弱小だけど何かが変わえられるかも」

今年から、「アクションなくして結果無し」をテーマに掲げた埼玉県人会(飯島秀昭会長)は、活動の第一弾として、埼玉県所沢市で十月に行なわれる『所沢フェスティバル』に同県人会ブースを設置、同時に少年サッカー教室を開くなどし、母県に対する広報活動を行なう。同県人会は、三日午後六時から、同県人会事務局で月例会を実施。集まった七人の会員らは、「見ての通り弱小だけど、ここから何かが変わえられるかも」と、三時間にわたり熱のこもった討議をしていた。

地元でサッカー教室 日伯友好議員連盟と連携深め

今回の企画は、埼玉県県議会議員六十五人で構成されている日伯友好議員連盟と同県人会の間で、「もう少し親密な関係を築く手立てはないか」と、討議したことがきっかけになり立ち上がった。飯島会長や尾崎眞次副会長が訪日時に県庁や市と三回にわたり協議し、実現の運びになったという。

月例会では、はじめに尾崎副会長が企画の概要を説明。ブラジル大使館と国際協力機構(JICA)横浜の全面協力で、ブラジル紹介のパネル設置や紹介ビデオの放映を行なう。また、コーヒー、果物ジュース、パステルなどの販売や特製パンフレットの配布もする。

さらに何といても今回の目玉は少年サッカー教室で、元日本代表の岩本輝雄氏、エクアドル元プロの中川賀之氏を講師に迎えて同県内の小学五、六年生二百名を対象に開く。「ブラジルといえばサッカーという軽い気持ちで親しみをもってもらえれば」と、発案に至ったことなどが話された。

飯島会長は、「これからの県人会は母県に頼るばかりでなく、こちらからアクションを起こし、対等の立場で向き合えるような関係を築いていかなければ」と語り、「たとえ失敗に終わっても次の世代へ繋げるきっかけにはなる」と、思いを込めていた。

根本信元前会長は、「将来的に県人会という枠組みが残る可能性は薄い。これをきっかけに他県の交流も活発になれば、日系社会の後世に絆を残せるのでは」と、強調していた。

柘植(つげ)教子婦人部長も、「このままの県人会ではもたないし、伸びていかない。石を投げてみるのも良いかも」と、笑みを浮かべていた。

同会ではこの他、準備委員長の尾崎副会長の訪日が承認され、同月行なわれる川越産業博覧会への出展も内定していることなどが報告された。また、母県への広報活動は来年以降も継続し、会員一人一人を実行委員として派遣することについても話し合われていた。

写真:「アクションなくして結果無し」と、力強く語る飯島会長

2009年9月5日付